

Thomson StreetEventsSM


コンファレンス・コール議事録

GE-2006年度第1四半期収益コンファレンス・コール

開催日時: 2006年4月13日 午前8時30分（東部標準時）

"This document contains "forward-looking statements" - that is, statements related to future, not past, events. In this context, forward-looking statements often address our expected future business and financial performance, and often contain words such as "expects," "anticipates," "intends," "plans," "believes," "seeks," or "will." Forward-looking statements by their nature address matters that are, to different degrees, uncertain. For us, particular uncertainties which could adversely or positively affect our future results include: the behavior of financial markets, including fluctuations in interest rates and commodity prices; strategic actions, including dispositions; future integration of acquired businesses; future financial performance of major industries which we serve, including, without limitation, the air and rail transportation, energy generation, media, real estate and healthcare industries; unanticipated loss development in our insurance businesses; and numerous other matters of national, regional and global scale, including those of a political, economic, business, competitive and regulatory nature. These uncertainties may cause our actual future results to be materially different than those expressed in our forward-looking statements. We do not undertake to update our forward-looking statements."

会社側出席者

ダン・ジャンキ

GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ジェフ・イメルト

GE - CEO

キース・シェリン

GE - シニア・バイス・プレジデント兼CFO

コンファレンス・コール出席者

ボブ・コーネル氏

リーマン・ブラザーズ - アナリスト

ジェフ・スプレグ氏

シティグループ - アナリスト

スコット・デーヴィス氏

モーガン・スタンリー - アナリスト

ディーン・ドレー氏

ゴールドマン・サックス - アナリスト

ロバート・マッカーシー氏

CIBC ワールド・マーケッツ - アナリスト

ピーター・ネスヴォルド氏

ベア・スターンズ - アナリスト

アン・ドゥイグナン女史

ベア・スターンズ - アナリスト

ブライアン・ランゲンベルグ氏

フォーサイト - アナリスト

ニゲール・コー氏

ドイツ銀行 - アナリスト

プレゼンテーション

オペレーター

皆様、本日はGEの2006年度第1四半期収益に関するコンファレンス・コールにご出席いただきありがとうございます。この度、ご参加いただく皆様は聞き取りのみ可能となっております。私は、本日のコンファレンス・コールで皆様のコーディネータを務めさせていただくレイチェルと申します。なお、本会議の内容は録音されます。引き続き、本日の会議主催者であり、インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデントであるダン・ジャンキ氏に進行をお願いします。では、よろしくお願いいたします。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

レイチェル、どうもありがとう。ジョアナと私は、本日ここに収益に関するコンファレンス・コールを主催させていただけることを大変光栄に思います。まず始めに、本日はペサハ祭であり、明日は聖金曜日にもかかわらずご出席いただきましたことへの御礼と共に、本会議開催により皆様、並びにご家族の皆様にご迷惑をおかけしたことに対するお詫びを述べさせていただきます。

今朝6時30分に発表しました弊社のプレスリリースをご覧くださいませでしょうか。これからご紹介するスライドは、補足情報と共に弊社ウェブサイトwww.ge.com/investorに掲載されています。ご覧いただけない場合は、画面を更新してください。また、これらの情報をダウンロードし、プリントすることも可能です。

これはウェブキャストですので、進行に伴い画面の更新が必要になる場合がありますことをご留意ください。また、いつも申し上げておりますが、弊社のプレゼンテーションには現時点における世界情勢および経済状況に基づく予測情報が含まれております。これは、情勢の移行に従い、変更される可能性がありますのでその点を考慮に入れてご覧いただければ幸いです。

本日のコンファレンスでは、第1四半期の業績、次に第2四半期の展望についてお話いたします。また、これに続き質疑応答の時間を設けております。これに先立ち、弊社のCEOジェフ・イメルト、またシニア・バイス・プレジデント兼CFOのキース・シェリンをお迎えしています。ではジェフ、よろしくお願いいたします。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ダン、ありがとう。皆さん、おはようございます。弊社の2006年度第1四半期の財務的業績は良好・堅調であり、GEのビジネス基盤は依然として上向きです。弊社の第1四半期の受注高は33%増加し、ポートフォリオ全体において極めて好調な受注実績を確認しました。また、機器のバックログはCSAバックログと同じく22%増加しています。弊社は大変質の高い資産内容を確保しています。

第1四半期においても引き続き強気な実行力により、収益は予想を少々上回る10%増を達成しています。オリンピック事業および年金事業を除き、インダストリアル事業の営業利益は0.5ポイントの上昇となりました。継続事業は14%増で、EPS (株当たりの利益) は18%増となっており、極めて好成績を上げています。

キャッシュジェネレーションでは、全体で132%増加という堅調さを見せ、インダストリアル事業のCFOA (営業活動によるキャッシュフロー) は24%増加し、33億ドルを達成しています。株の買い戻しを促進してきた弊社は、2006年度第1四半期に30億ドルの株の買い戻し、弊社にとって大変重要な基準であるROTC (資本収益率) は1.4ポイント、17%の増加となりました。つまり弊社は転機を迎えており、目標である20%達成に向けて前進しているのです。

成長イニシアチブは、確実に成果を上げています。弊社の実質的成長率は予想を上回る9%増を示し、成長プラットフォームは22%増、またサービスの売上は10%増となりました。達成率の見地から見てもやはり、2006年度第1四半期は好調な滑り出しとなっており、極めて良好な数字を記録しています。

各四半期は弊社の戦略的構想を見直す機会であり、会社の今後に対する判断力を養う機会であると私は考えます。

弊社が抱える大きな課題としては、まずグローバルなインフラストラクチャーと設置基盤の発展が挙げられます。インフラストラクチャー事業における弊社の機器受注率は2005年度第1四半期の2倍となっており、この分野においても弊社は大変堅調な時期を迎えています。

弊社は、金利の上昇する状況下においてROE (資本利益率) の高い金融サービスの成長を維持しています。また、コマーシャル・ファイナンス事業およびコンシューマー・ファイナンス事業における弊社の地位も大変好意的であり、保険事業からの撤退についても順調です。弊社は、最先端技術を利用した多様なヘルスケア事業を設立します。弊社は今まさに一貫性のある2桁の成長率を実現しています。営業利益率の拡大により、収益は10%増となりました。弊社の事業内容の位置付けは良好であるといえます。

弊社は、今後も引き続きインダストリアル事業と営業利益率の拡大に重点的に取り組みます。弊社の第1四半期は、コンシューマー・インダストリアル事業において非常に良好かつ堅調な業績を達成しました。これは、価格と販売量のトレードオフを実現し続けることで弊社の弱点であるプラスチック事業の埋め合わせをしています。至るところ弊社のインダストリアル事業は営業利益率を拡大すると共に、引き続きNBCのプライムタイム番組視聴率の向上も実現させています。弊社は真に堅調な多角事業構成を確保しています。つまり弊社は、会社に勢いを発してくれるであろう、長期にわたって極めて堅実であると確信する戦略を遂行しているのです。

次のページでご覧いただけるのは、1年以上前に弊社が着手した実質的成長イニシアチブのアップデートです。実質的な収益成長率の見地から見ると、四半期で9%増加しました。ポートフォリオ全体における確固たるパフォーマンス、また2倍という他社に引けをとらない歴史的な記録からも、弊社の将来にとって良い前兆であると見ることができます。

サービスは、実質的収益の成長率10%増の原動力となったもののうちのひとつです。弊社は、新規に24億ドルのCSA契約を受注し、バックログの増加、また全体的な収益の増加が確認されています。この四半期の内部成長率は8%で、成長プラットフォームも22%上昇しました。FX (外国為替取引)

以外の弊社の世界全体の収益は10%増と、極めて堅調です。中国における受注は21%増で、中東およびアフリカの受注は60%増となっています。この結果は、グローバル化の重要性を示しています。そして、収益増加を実現するためのイマジネーション・プレー・クスルーも好成績を上げています。

弊社のヘルスケア・ファイナンシャル垂直事業は、29%の出来高となっています。また、弊社はエンターテインメント事業においてデジタルフットプリントを拡張し続け、HDMR製品に続いて、新規のMRの受注も好調です。

つまり、これが会社の将来の発展に影響を与えるであろうイニシアチブなのです。弊社はこの素晴らしいイニシアチブで将来性を拡張し続けます。ではここで、キースに弊社の実績について話をしてもらうことにします。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ありがとう、ジェフ。ジェフの説明のとおり、受注は好成績を上げ、第1四半期の240億ドルの受注に関しては全体で33%増加しました。この表の左側を見ていただくと、主要機器の受注状況を確認していただけます。前にも申し上げたように、主要機器の受注は四半期によって多少の波がありますが、弊社はこの第1四半期において素晴らしい成果を上げています。67%増で108億ドルの受注があったことを確認できます。

事業別に表を下に向かって見ていくと、航空機事業において、今年は去年の第1四半期に比べて3倍の伸びを示しています。エネルギー事業は60%の増加です。ヘルスケア事業は2%増加となっていますが、外国為替の影響もあり実質的には6%の増加です。石油事業、ガス事業、トランスポーターション事業でも好調な伸びをみせ、バックログは22%増加の290億ドルでした。

表の中ほどに報告されているサービス業では受注が20%増加の75億ドルとなっており、全体的に堅実な事業成績を確保しています。航空機事業

エネルギー事業はこの四半期に核燃料の再補充で大幅な収益を上げており、いくらかの核燃料再補充を除外しても約20%の増加です。サービス受注が好調なヘルスケア事業、好成績を上げている石油ガス事業およびトランスポーターション事業、そしてCASバックログは860億ドルの2桁増加です。これらのことから、発展と堅調な事業力がお分かりいただけるでしょう。

最後に、右側の外国為替、買収、または譲渡を除いた弊社の1日当たりの平均受注率も順調に推移しています。2005年度第4四半期では、3%だったオーダー・フロー率が今期には8%に上昇しました。本四半期はC&Iセキュリティにおいても好調だったことが確認いただけます。プラスチック事業も本四半期では好成績を上げ、14%増となりました。かなり良好な経済実績を記録しています。

世界規模で見ると、アメリカが堅調で6%の増加でした。欧州は第4四半期に立ち直りをみせました。欧州における弊社のオーダー・フローは12%減でしたが、第1四半期では8%増、アジアでは非常に堅調な17%増となりました。3月は11%増と好調で、全体的に良好な経済活動を遂行しており、弊社の将来にとって良好な前兆をこれらの主要機器やサービスの受注にも見ることができます。社内全体の受注において素晴らしい四半期であったことは明白です。

次のページでは、引き続き大変堅調なニュースとして、ポートフォリオの質について話を続けていきます。左側は、コンシューマー・ファイナンス事業と機器ファイナンス事業における30日以上滞納状況です。ご覧いただいているように、滞納状況は前年に比べて横ばい状態または減少しており、コンシューマー・ファイナンス事業のポートフォリオにおける消費者クレジットの質は安定しています。機器ファイナンス事業における滞納率は依然低いことがわかります。後ほど、商業金融および消費者金融に関する評価指標を説明いたします。また、無収益資産および償却は減少しており、これに関しても少々補足説明をいたします。

右側からもお分かりいただけるように、機器サービス事業の利用は市場における経済活動を高レベルに維持します。ポートフォリオ全体では85%です。Penskeが数ポイント減少していますが、それでも92%を維持しています。これは素晴らしい業績であり、本四半期には鉄道事業およびトレーラー事業が共に増加しています。優れた経済活動と堅調な事業力がGEキャピタルからの貸借対照表に表れています。

次は、第1四半期連結決算概況です。収益は10%増で、378億ドルでした。本四半期、弊社はインダストリアル事業とファイナンシャル事業の収益で堅調な成長を遂げました。収益は14%増で、40億ドルでした。弊社は株の買い戻しにより1.5ポイントの利益を上げ、EPSは18%増の0.39ドルとなりました。キャッシュフロー
今年度弊社はCFOA全体で、130%以上増の67億ドルという素晴らしいスタートを切り、インダストリアル事業のキャッシュフローでは24%増を達成しています。これは驚異的なニュースです。

右側に、収益に対する年金の影響を確認していただけます。去年の収益は36億ドルでした。事業収益は約17%の増加でした。本四半期、年金は1株当たり0.01ドル分足を引っ張っていましたが、現金という具体的な形の出費ではないにしても1株あたり0.01ドル分足を引っ張っています。この数値が今年の各四半期で予測されることにより、今年の合計額は0.04ドルになる見込みです。つまり収益は40億ドルになるわけです。

右下に記載されているのは第1四半期の最新税率です。まず、GECSを除いた弊社インダストリアル事業の税率は約2ポイント減少し、24%となっています。この数字は去年より減少しており、国際的な事業活動による免税額が影響しています。また14%となったGECSの税率は昨年より増加しています。これは4ポイントの上昇で、前年比の会社全体の税額をみると、総合税率は18.4%で0.4ポイントの増加でした。つまり、前年と比較して第1四半期の税率は高くなっています。

昨年のような航空機リース事業の再構成による税制優遇措置がなかったことが主因となって、GECSの税率は4ポイント増加しました。税率について最後に申し上げたいのは、第1四半期の税率が現時点における弊社の今年の予想税率であるということです。ご存知のように、収益の地理的分布および税務計画により情勢は変化します。もし皆様が税幅の起用を希望される場合、インダストリアル事業の税率を24%から26%の範囲としていただければ幸いです。GECSの税率としては、今年度を通じて13%-15%が適当ではないでしょうか。税率は、GECSの収益に対する弊社の考え方に影響を与えるものではありません。これはあくまでも収益の混合であって、GECSは我々がそもそも年度末に予測した収益に対する新たな税制優遇措置によってもたらされるものなのです。

次に、実施中のインシュアランス事業の戦略について最新情報をお伝えしたいと思います。このページの左側にEPSにおける収益をご覧ください。合計が40億ドルと報告されており、継続事業としての1株当たりの利益は0.39ドルとなります。本四半期では、廃止事業において好調です。この件に関してご説明します。0.3に切り上げると、ページの下部に報告されているように、継続事業および廃止事業を含んだ純益は43億ドル、1株当たり0.41ドルとなります。

右側を見ていただくと、廃止事業において起きた真相を確認していただけます。2点ありますが、まず、3月の下旬に弊社が所有していたジェンワースにおける残余株を25億ドルで売却し、その現金をGEキャピタルのキャッシュフローに計上しました。これにより弊社は特別配当を獲得しました。

また、弊社はジェンワース株の売却で3億ドルの利益を得ています。これで弊社は完全にジェンワースから手を引いたことになりました。弊社が所有するジェンワース株はゼロになりました。去年の第1四半期を振り返ると、弊社はジェンワース株の4分の3、71%を所有していました。今年度の第1四半期ではゼロです。

次に弊社が実行に移したことは、ジェンワースの新規株式公開を行った際、留保した事業であるGEライフからの撤退に向けた積極的な手続きです。GEライフからの撤退による効果は、この第四半期の廃止事業に盛り込まれています。補足の表で唯一示しておきたいのは、現在GEライフは廃止事業なので、記載されるGEライフの四半期ごとの収益効果は2005年のものであり、2005年度基準収益で報告されるということです。2006年度の収益をご覧になる際、これを考慮に入れる必要があるかと存じます。将来のある時点において弊社は各四半期におけるGEライフの収益分、約6億ドルを失うことになります。

詳細を示した表からもお分かりいただけるように、利益の観点から見てもこれは弊社に影響を与えていません。GEライフを廃止したことによる収益の損失はほとんどありません。GEライフ廃止での損失は約1億7,500万ドルで、ジェンワース株で得た利益である程度相殺されます。

最後に、廃止事業に関する3番目のポイントは、本四半期におけるインシュアランス・ソリューションの成果です。インシュアランス・ソリューションのチームは、約1億3500万ドルの税引後利益を上げており、ご覧のとおりこれもまた廃止事業に包括されます。

弊社はこの展開に大変満足しているといえるでしょう。弊社は、インシュアランス・ソリューション販売でSwiss Reと提携を図り、第2四半期での契約締結を目指しています。この取引がまとまれば、第2四半期中に最高で30億ドルの現金を受け取り、株や手形を手にする予定です。よって、インシュアランス戦略の遂行における継続的發展に満足しています。

次にキャッシュフローです。すでにお話しましたように、キャッシュフローが大変好調な出だしを見せたことを弊社は大変嬉しく思います。左側のバーからお分かりいただけるかと思いますが、本四半期のキャッシュフローは67億ドルで、インダストリアル事業のキャッシュフローは昨年の27億ドルから今年は24%増加の33億ドルに増加しています。好調な純益と増加を達成し、運転資本でも利益を上げています。

バーの上部に記載されているGECSの配当金ですが、そもそも去年の第1四半期には弊社のGEキャピタルサービスの内部留保からの配当はわずか10%ほどでした。今年は40%、約9億ドルの配当金を受け取り、ジェンワースの株売却でも収益を上げています。よって合

計で34億ドルになります。ジェフが説明しましたように、弊社は本四半期に30億ドルの株の買い戻しを行いました。これは約8800万株となり、前年比で株数の平均減株は約1億6,000万株で、昨年と今年における買い戻しによる利益を示しています。

右側は、20億ドルのキャッシュスタートです。左側はCFOAからの合算です。弊社は、配当金に26億ドル、株購入に30億ドル、そして多少のプラント費および設備費を支払いました。またIDX買収で締結した大きな買収を1件実現しました。これが約14億ドルで、16億ドルの負債残高があることから、3月の残高は18億ドルとなります。キャッシュフローですばらしいスタートを切り、合計が10%から15%増加したことに満足しています。極めて堅調です。

では次に、業績について説明いたします。まず第1四半期および第2四半期の概況を説明してから、各事業別の詳細に移りたいと思います。第1四半期に関してここで説明させていただくのは、収益およびセグメント別利益に対する業績と、我々が以前皆様にご案内したガイダンスと比較した実際の業績についてです。

左側の収益からもお分かりいただけるように、弊社はポートフォリオ全体でトップレベルの大変堅調な増益を上げました。ほぼ全員の方が弊社の予想額に納得されていまして。コマーシャル・ファイナンス事業は、弊社の予想を少々上回る好成績を上げています。すでにお話した第4四半期の繰越からの利益を得ました。さらに、NBCユニバーサルもガイダンスを少々上回りました。これはオリンピックおよびNBCポートフォリオの他の部門における事業力がもたらした好結果です。

セグメント別収益の右側でわかるように、弊社の第1四半期は好調でした。ご覧いただけるように、コマーシャル・ファイナンス事業、ヘルスケア事業はわずかですが、予想を上回っています。インダストリアル事業は、マイナスとなっています。わずかですが、弊社の予想を下回りました。これはプラスチック事業がもたらした結果です。これについては後ほど説明しますが、ガイダンスでは15から20でした。実際は14です。――

大変好調な四半期であったといえるでしょう。幅広い分野における事業力の証です。弊社は期待に応え実績を上げています。次のページに続き、事業別の詳細を説明いたします。

第2四半期の概観を説明いたします。予測されるように、第1四半期と類似したプロファイルになっています。収益ガイダンスもかなり類似していることがお分かりいただけます。NBCユニバーサルの下部をご覧になるとお分かりいただけますが、唯一の相違点は冬季オリンピックの比較対象となるものがないことです。NBCにおいては一定の収益が見込まれ、セグメント別収益のガイダンスは全体的に第1四半期と一致していることが見て取れます。

次に、右のボックスに総合社内評価指標を確認していただけます。収益は6%から9%増の390億ドルから400億ドルです。先程申し上げましたように、補足の表で収入減となるGEライフの影響があっても、好調を維持し第1四半期に類似したプロファイルになると思われます。

収益が10%から14%増、48億ドルから50億ドルの増額は素晴らしい展望です。また、1株当たりの収益幅は0.46ドルから0.48ドルとほとんど変化していません。つまり、12%から17%増という第2四半期のガイダンスには変更はありません。では、ここから事業別に見ていきます。

初めに、インフラストラクチャー事業です。インフラストラクチャー事業は本四半期堅調な業績を上げています。収益は8、セグメント別収益は11とそれぞれ増加しているのがお分かりいただけます。主要事業の業績の左下をご覧になると、エネルギーを除くすべてにおいて驚異的な事業力を発揮しているのが確認できます。次のページでエネルギー部門の詳細は説明いたしますので、ここでは詳細に触れずにおきます。右上でご覧いただけるように、本四半期インフラストラクチャー事業は好成績を収めました。インフラストラクチャー事業セグメントの受注は61%増の140億ドルとなりました。弊社は、間違いなくテクノロジーおよびグローバル化サービスでの投資による利益を得ています。機器のバックログは、25%増でした。弊社はこれらの事業において非常に堅調な収益成長率を達成しました。

ここでは、そのいくつかを取り上げます。航空機事業部門では、四半期に424台の業務用エンジンを出荷しました。これは、昨年を79台上回る23%増の数字です。また、航空機事業でのサービス収益は11%増となりました。トランスポーター事業では、本四半期に219台の機関車を出荷しました。これは、昨年を66台上回る、43%増の数字となり、サービス収益は20%の増加を達成しました。つまりこれらの事業で、驚くべき強さを発揮しました。石油ガス事業も同様です。機器事業は27%、サービス事業では12%の増加でした。エネルギー事業の主要要因であるガスタービンが前年に比べて減少しましたが、これは弊社の予想範囲内の数値です。しかし、収益の減少の原因で、ガスタービンは昨年を13台下回っています。

セグメント別利益では、これらの事業における驚異的なレバレッジを確認していただけます。ここで、ひとつ前に戻って、ビジネスモデルの中から機関車販売を主体とするトランスポーター事業を例として見てみましょう。機器の出荷でより堅調な実力を発揮しています。すでに数字についてはお話しましたが、その数字はEVO機関車の先端技術に基づいています。弊社は、機関車の

記録的な伸びのおかげで設置基盤の発展を実現し、高収益のサービス事業において成長を遂げました。つまり、すべてが順調に進行すれば、素晴らしい財務的結果を達成し、トランスポートレーション事業での35%の収益増加および好意的に見れば100%のセグメント別収益のレバレッジを実現することができます。同じことが航空機事業にも適用されます。石油ガス事業についても同じことが言えます。これこそがインフラストラクチャー事業においてデブ・カルフォン率いるチームが遂行していることなのです。利益の観点からみると、好調な四半期でした。

さらに、金融サービス垂直事業は依然として堅調です。良好な売上高を達成しました。堅調な2桁の収益を上げています。収益の質についても良好です。例えば、GECASには地上に航空機は2機のみですが、弊社はそのポートフォリオを大変有効に管理し続けています。

第2四半期の収益の原動力を見ても、類似したプロファイルであることがわかります。全体的に、インダストリアル事業は10%から15%の伸びを見せており、今後も順調に機器の出荷が続けます。これから説明いたしますが、弊社はエネルギー事業でのプロファイルの改善を行う予定で、四半期を通してサービスにおける堅調な事業力の維持を図ります。

金融サービス垂直事業は0から5上昇すると予測されていました。第2四半期は多少厳しい状況が予想されていますが、年間業績に向けては順調です。インフラストラクチャー事業の第2四半期の見通しは、セグメント別収益の10%から15%増です。

では、ここでエネルギー業について詳しく説明いたします。主に2点触れさせていただきます。まず、本四半期に対する前のガイダンスを下回った理由をご説明し、年間のプロファイルをご覧いただくとともに、ジョン・クレニキ率いるチームが2桁の年間営業利益を達成すると弊社が確信している理由を説明いたします。

このページに詳細をまとめてみました。左上から始めます。第1四半期では弊社の予想を下回りました。主要因は3つです。まず、ガスタービンと(航空機)部署のタイミング、および好転が見込まれていた顧客のタイミングです。これについては弊社が少々楽観視していたといえます。次に、弊社はNPI投資の時期を早めています。バグラン湾工業地帯は、世代テクノロジータービンを誇る弊社のショーサイトです。弊社は本四半期に機能を停止しタービン技術をアップグレードしました。このため収益の減少とNPI経費が余儀なくされたものの、弊社は新製品への投資に拍車をかけています。

石炭のガス化では、顧客は明らかにこのテクノロジーの導入を強く要求しています。よって、弊社がこの大規模な受注に対応していくことは重要です。ご説明したバグラン湾における世代テクノロジー、および沸騰水型原子炉です。弊社は本四半期にかなりの投資を推し進めました。では、最後に水力発電について説明いたします。水力発電は好転していますが、弊社の予測をわずかに下回りました。実際の結果と予測を照らし合わせると3つの要因があることがわかります。

下表は、これを財政的な見地から説明したものです。表の下部をご覧ください。本四半期における弊社の火力発電、風力発電、および水力発電を含む発電事業は低迷しています。本四半期では約2億ドルの減少でしたが、1億ドルはサービス事業の好調な収益によって相殺されました。サービス事業の営業利益は5億5000万ドル以上でした。これは大変堅調な数字であり、本四半期では19%増となっています。

一番下においては、要因をご確認いただけます。それは、ガスタービンのプロファイルです。需要はかなり好調です。弊社では2006年度の出荷が増加することを常に見込んでいましたが、本四半期において前半から後半へ移行するに依り、出荷件数が増加しています。つまり、ガスタービン事業には時機があるのです。本四半期前半では、21台出荷しています。これは、昨年に比べ13台の減少です。そして、本四半期後半に移ると、昨年とほぼ同水準です。そして、一步優位に立つというのが現在の予想で、上半期の49台出荷から下半期は91台に増加します。つまり、年間合計出荷数は13%アップの140台となり、目標数の90%以上になるわけです。弊社はこのプロファイルに大変満足しております。

第2四半期になると、財政的な見地において利益を確認し始めます。第2四半期の予想値をご覧ください。発電事業の影響は下火となり、サービス事業は好成績を維持しています。サービス事業における受注は第1四半期で37%増となりました。弊社はサービス事業の収益を維持し続けると共に、第2四半期の伸びは第1四半期を多少上回ることが予測されるため、収益増加が期待できます。弊社は下半期に5%から10%の増加を見込んでおり、ガスタービンの需要増加とともに風力発電、水力発電などの発電事業が発展するほか、サービス業が好成績を維持し続けることがお分かりいただけるかと思います。

つまり、弊社のエネルギー事業は順調に推移しているということをお伝えしておきます。我々は、この事業の企画経緯に満足しており、生産力は明らかに年間を通じて向上の一途をたどることになるかと思われます。事業は好調に推移していると確信しています。

では、次の事業、コマーシャル・ファイナンス事業に移ります。コマーシャル・ファイナンス事業は、またしても記録的な四半期を迎えました。ここでその数字を見ていただきます。驚異的な数字です。収益は8%増、セグメント別収益は27%増で、11億7,400万ドルとなっています。資産成長は4%増、また左下にあるのが主要事業の業績です。まさにキャピタル・ソリューション事業および不動産事業において好調な四半期でした。キャピタル・ソリューション事業では19%、そして不動産事業では42%の増加となりました。ここでもかなり強力な原動力を確保しています。これらの事業における収益増加は喜ばしいことです。我々は、さまざまな経済活動を確認してきました。キャピタル・ソリューション事業は、極めて好調です。また、不動産事業も、驚異的な好成績を上げています。第1四半期に弊社はアジア、欧州の両地域において共に大幅増益である47億ドルの収益を記録しています。

企業金融サービス事業も20%の増益を実現しました。主要収益の増加と損失の減少、そして買収による収益は、キャピタル・ソリューション事業において満足のいく増益となりました。すでに申し上げたように、弊社の不動産事業では、世界各地からの収益と資産売却による市場からの利益を十分に活用してのポートフォリオ投資の継続と第4四半期からの繰越が、四半期の優れた業績に加え、至るところ建設的なポートフォリオを維持しているのです。

無収益資産は13億ドルで、2億6,000万円の減額です。滞納額は1.3%で、0.23%下がりました。償却額は9300万ドルで、0.22%の減少です。そこで、今がポートフォリオの観点から検証する絶好の機会ではないでしょうか。この展望は今後も変わらないものと我々は予想します。第2四半期に入り、ポートフォリオの強さ、世界的な伸び、約15%のセグメント別収益を上げる資産における業績に注目してください。次の四半期では、不動産事業では約15から20%、キャピタル・ソリューション事業でも約15から20%の増加が見込まれます。

次はインダストリアル事業です。ご覧になるとお分かりいただけるように、インダストリアル事業にとって非常に良好な四半期でした。収益は6%増加し、申し分ありません。セグメント別収益は14%増です。この事業に関しては、左下をご覧ください。C&Iにとっては素晴らしい四半期でした。営業利益は33%増となっています。プラスチック事業にとっては、価格ライン(一定化)の絡みで厳しい四半期になりました。これについては、後程詳しく説明いたします。機器サービス事業は、言うまでもなく大変好調な四半期となりました。セグメント全体と生産力からもお分かりいただけるように、受注率は好調に推移しています。電気製品の受注率は16%の増加でした。実質的に、プラスチック事業は2%増を達成しています。収益は6%増で価格が4%下回ったのが確認いただけるかと思いますが、3月は14%上昇しています。つまり、本四半期中、弊社はプラスチック事業における経済活動を徐々に確立していったといえます。また全体的に見れば、本四半期におけるこれらの事業は見事な収益を上げています。

C&I事業は驚異的な収益を上げ、かなり広範な基盤を確保しています。電気製品事業は14%増、インダストリアル事業全体では11%の増加をご確認いただけます。供給量は13%増となりました。照明機器事業はほぼ横ばい状態でした。よって、この分野においても好調な経済活動が認められます。先程申し上げたように、プラスチック事業は世界的に全体的な収益が7%増加し、弊社はセグメントの営業利益を0.5ポイント増益しました。

さて、プラスチック事業ですが、弊社は価格ラインを一定に保っています。価格は約3%下回っています。生産高は約7%増加しています。我々は、競合的に現在の生産力を判断してきました。我々は、シャーリーン率いるチームのこの事業における運営を称賛します。これにより、この事業における第2四半期に向けての態勢は万全であるといえます。弊社の見解からお話すると、プラスチック事業では5%から10%の増加が見込まれています。

電気製品事業はその分野での最高位をめざした戦略を推進し、それによる利益を伴うモノグラムとプロフィールの2桁増加を実現しました。また、機器サービス事業にとっても良好な四半期となっており、今後も好成績を維持していくでしょう。つまり、第2四半期においても同様の力強い業績が期待できます。我々は、好転するプラスチック事業によってもたらされる15%から20%のセグメント別収益の増加を見込んでいます。プラスチック事業が第1四半期に直面することとなった厳しさはいくらか和らぎ、C&I事業は受注率および市場での成長率からしても極めて充実した年になるでしょう。

次は、NBCユニバーサルです。左上は、財務収益の報告です

収益は24%増加しセグメント別収益は8%減少しましたが、トリノでの冬季オリンピックが決算の数字上に大きく影響しています。我々は、決算からオリンピックを削除しオリンピック効果がなかった場合の業績について仮説を立ててみました。収益の伸び率は5%にとどまり、セグメント別収益は6%の増加になっていたはずですが、オリンピックに関してはこの後すぐに説明いたしますが、本四半期のNBCの業績に間違いなくかなり重大な影響を与えています。

左下はセグメント別収益の業績です。このフレームワークを使って、弊社プライムレートの影響を受けている事業、セグメント別収益で占める割合、四半期のプライムレートとセグメント別収益の結果、そして年間予測を説明させていただきます。同様にプライムレート、そしてテレビ番組制作部によって影響を受けるプライムネットワーク・パフォーマンスステーションは、本四半期ではセグメント別収益の約25%を占め、25%減少しています。その事業の他の部署および収益の大部分をご覧いただいても、収益の75%は満足のいくものです。これは業績の右上にハイライトしてあります。

ご存知かと思われますが、エンターテインメント・ケーブル事業の営業利益は25%増加しました。我々は、弊社のケーブルチャンネルにおける良好なプライムレートと業績を維持し続けます。USAは、現在第1位に格付けされているケーブルネットワークです。ブラボーおよびサイエンスフィクションで非常に好調です。ニュースケーブルの視聴率は25%の伸びをみせ、CNBCおよびMSNBCは伸び続けています。劇場映画の公開に関しては非常に充実しているほか、映画およびDVD事業も明らかに堅調な業績を上げています。映画事業チームは本四半期に13%増の3億ドルの営業利益を達成しました。キングコングの公開は、公開後最初の数週間、ユニバーサルの歴史の中でも最高の成績を上げました。650万DVDの売れ行きは好調で、営業利益には、本四半期のオリンピックによる損失を相殺するドリームワークとの提携解約からの収益が含まれています。

オリンピックにおける業績は、我々の期待通りでした。かなり良好なプライムタイム視聴率を記録しています。ケーブル放送も非常に堅調でした。さまざまな放映手段が大変功を奏し、NBCOlympics.comは非常に良い業績を上げました。オリンピックは財務的に6億8,400万ドルの収益をもたらしています。本四半期の損失は約7,000万ドルでした。年間で見ると、四半期ごとの加盟系列局からの寄付の効果を考慮するとオリンピック事業はわずかながら利益を上げました。つまり、損失を出したとはいえ、オリンピック事業は期待通りの業績を残したといえます。これは弊社の年間プロファイルの一環であり、弊社が予め予測していたことです。

プライムタイムにおいて、弊社は発展し続けています。我々は向上に向けて多大な時間を費やしており、その過程に満足しています。また予定番組も目白押しです。"Deal or No Deal"は非常に好調で、"Earl"および"The Office"も順調です。最終章に近づくにつれ、どれくらい人気のある番組に発展するかを確信しています。我々はデジタルメディア事業においても引き続き発展の一途をたどります。

全体を見ると、弊社は多くの事業で好成績を維持していますが、プライムタイムの立て直しという課題に直面します。これは第2四半期にも影響をもたらします。プライムとTVPDは下降傾向にある一方で映画、ケーブルおよびその他の事業は上昇傾向にあります。また第2四半期には、バランスのとれた2つのイベントを予定しています。昨年、弊社はユニバーサルの合併による第百との提携解約から利益を得ています。これは建設的な出来事であり、今年中に弊社は3月末に発表した2件のステーションセールスを締結する予定です。これにより昨年の第百からの利益をある程度相殺する予定です。現在、我々は現時点における事業プロファイルを作成中です。第2四半期ではセグメント別収益は約10%下回りますが、年間ではほぼ横ばい状態になる予定です。

このページでは最後に2つの事業をご覧ください。ヘルスケア事業にとっては素晴らしい四半期となりました。収益は10%増で、世界的に非常に好調でした。セグメント別収益は21%増でした。営業利益は1.2ポイント上昇し、非常に良い業績を残しました。実質的に9%の増益を達成しています。詳細を見てみると、CTは31%増、レントゲンは17%増、超音波は22%増と素晴らしい業績を上げています。また、弊社はVCTでも好成績を維持しています。弊社は151の T. VCT
本四半期では(60.32)スライスユニットを売却していますが、受注は185ユニットです。つまりバックログが300あるわけです。昨年度末に比べ16%の増加で、これらの収益率は営業利益における好結果をかなり広範囲にわたり導いています。テクノロジー事業、機器事業、およびサービス事業は18%の増加です。バイオサイエンス事業および臨床システム事業は30%の増加でした。ヘルスケア・サービス事業のみの営業利益は15%増となっています。収益ストリームにおける広範囲にわたる収益の伸びは好調で、IDXの買収と統合は素晴らしいスタートとなります。我々は、好成績の継続を確認しています。第2四半期では、セグメント別収益の15%から20%増加が見込まれます。

右側をご覧くださいとお分かりいただけるように、コンシューマー・ファイナンス事業にとっても大変充実した四半期となりました。収益は9%増、セグメント別収益は14%増、資産額は6%増を達成しています。この事業に大きく影響したのがドル高です。FXを除き、資産額は、実際に13%増加しています。頼もしい中核成長です
実質成長は10%増でした。事業全体を通して広範囲にわたり好成績を上げています。アメリカにとって手応えのある四半期になりました。また欧州、オーストラリア共に上昇しています。アジアは日本が要因となって全体的にほぼ横ばい状態でしたが、総合的に見て好調な中核成長を遂げています。

弊社は買収と世界中のパートナーシップから利益を得ており、第2四半期は本四半期とほぼ同様の状況が予想されます。セグメント別収益は約15%増となることが予想され、世界的に堅調な伸びと優れた資産内容が期待できます。これで6事業の説明をしました。最後の総括はジェフにお願いしたいと思います。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ありがとう、キース。念を押しますが、GEにとって2006年度第1四半期は堅調でした。収益は10%増加しています。受注は弊社にとって驚異的な33%の増加で、今後の明るい見通しを与えるものです。実質成長は弊社の内部目標を上回る9%の増加でした。ほぼ約0.01ドル
わずかに0.01ドルを上回る

の年金の逆風にあおられながらもEPSは、18%増の0.39ドルでした。好調なEPSの成長により現金は2倍以上の伸びを見せ、インダストリアル事業のキャッシュフローも同様に堅調な業績を上げています。

より重要なことは、我々が企業戦略を確実に実行していることです。デイク・カルフォンが先導する世界的なインフラストラクチャー事業は、我々が前進するたにより強力な存在となっています。優れたバックログ、並びに素晴らしいサービスの契機です。マイク・ニールとデイク・ニッセン率いる金融サービス事業はこの環境の中で業務を遂行し、将来も好成績を維持していくものと思われま。

弊社は多様化したヘルスケア事業において、堅実に一貫性のある成長を遂げており、充実した製品ラインと素晴らしい実行力を備えています。我々は、この事業において一貫性のある優れた業績を達成できると考えます。ジョン・ライス率いるチームはインダストリアル事業の営業利益率を増大させ、素晴らしい業績を引き出すために日々尽力しています。また、キースからの説明にもありましたが、弊社はNBCユニバーサルを向上させることにより年間を通して堅調な実績の構築に取り組む所存です。大半のポートフォリオの運用は順調ですが、引き続きプライムタイムの番組編成に重点を置くことになります。

ビジネスの大きな原動力とは、社内に活気に満ちており、前向きな姿勢を維持できる力強さであると私は考えます。

最後に、資本管理についてですが、弊社では年間100億ドル以上のフリーキャッシュフローが見込まれています。弊社は第1四半期に30億ドルの買い戻しを達成し、年間70億ドルから90億ドルを達成する予定です。ROTCは拡大しており、将来を見据える上で良い兆候であると考えられます。非常に手応えのある四半期でした。我々は、年間ガイダンスの1株当たりの利益の増加を13%から17%増で再確認しています。イニシアチブとビジネス概念の観点から見ても、弊社は誇るべき推進力を備えていると我々は確信しています。それではダンの方から質疑応答を進めてもらうことにしましょう。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

了解しました。ジェフ、キース、ありがとう。今から質問を受け付けたいと思います。では、レイチェルお願いします。

質疑応答

オペレーター

(オペレーターからの説明) リーマン・ブラザーズのボブ・コーネル氏です。

ボブ・コーネル氏 - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

皆様、おはようございます。本四半期の実質成長率9%という数字に感銘を受けました。昨年の数字は10%と報告されていたように思いますが、まず初めに、本四半期は1年前の同期と正確に比較されたのですか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

はい、そうです。

ボブ・コーネル - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

ご説明いただいたように、本四半期は急速な成長を遂げたようですが、3月に好調だった理由をもう少し具体的に説明していただけますか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

そうですね...

ボブ・コーネル - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

地理的に言えば、欧州地域の回復を挙げていらっしゃったと思うのですが。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

欧州がの立ち直りは1つの要因だと思います。再度申し上げますが、フローが四半期を通して好調だったのはお分かりいただいているかと思いますが、主要機器事業とサービス事業に関しても四半期を通して好調でした。これらが3月にフローの増加につながったといえます。それは主にプラスチック事業でした。他の事業も四半期を通じて好調でした。

ボブ・コーネル氏 - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

業績は維持しているのですか?4月前半の現時点において、堅調な業績は続いていると言って過言はないですか?

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

経済活動はかなり良好ですよ、ボブ。サービス事業に関して言えば、弊社の第2四半期の予想値は今回ご確認いただいた第1四半期の結果と類似するといえます。サービス業での2桁増益、フローの5%から10%、また主要機器事業は多少変動があるかと思われます。全体の状況を確認する必要がありますが、経済活動はかなり順調です。金融サービス事業の売上高を見てもお分かりいただけると思います。コンシューマー・ファイナンス事業における低い滞納額にも表れています。プラスチック事業、電気製品事業、インダストリアル事業における受注率でもこれは明らかです。以上を踏まえ、弊社は経済活動に非常に満足しています。ジェフ、何かコメントがありますか。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ないと思いますが、ボブ、セグメント収益は引き続き堅調です。サービス受注高の20%増加は非常に建設的であると私は思います。なぜならば、あなたもご存知のように、それが販売利益と利益率に非常に重要であり、顧客の製品利用状況を表すからです。ですから、サービス事業に関して言えば、エネルギー事業の受注率が好調なことは、弊社の将来にとって非常に建設的な状況であると私は考えます。

ボブ・コーネル氏 - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

では、13から17という範囲に関して、ガイダンスを見直す時期についてはいかがですか。4月の現時点において、すべては好調に推移しているように思われます。その幅のある範囲を狭める時期はいつですか?

ジェフ・イメルト - GE - CEO

まだ新年度は始まったばかりですので、範囲に幅をもたせてあります。我々は事業がどのように進行していくのかを見定めたいを思っていますが、13から17という範囲は適切で、第1四半期における1株当たりの利益の18%増加で良いスタートを切ったといえます。

オペレーター

シティグループのジェフ・スプレグ氏です。

ジェフ・スプレグ氏 - シティグループ - アナリスト

エネルギー事業に関していくつか質問をさせていただきます。まず、60%の機器の受注高増加についてですが、どのような製品ですか。ガスタービンのようなものですか、風力関連ですか、それとも他のものですか。もう少し詳しくお願いします。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

わかりました。本四半期におけるガスタービンの数は、かなり良好な経済水準でした。本四半期中に約34件の受注がありました。数に関して言えば、昨年とほぼ同じですが、価格が約3%上昇しています。これにより好調な受注活動が達成されたわけですね。前年と比べて、デルタの要因は風力発電です。風力発電においては15億ドルの受注がありました。これは13億ドルの増加、60%の上昇で、価格は約4%上昇しています。しかし、石油ガス事業でも受注は好調でした。他の事業、特にサービス事業でも受注は好調でした。堅調な業績を上げています。特にガスタービンの受注活動水準がこの事業の前向きな将来を表していることから、我々は非常に満足しています。

ジェフ・スプレグ氏 - シティグループ - アナリスト

少し補足したいのですが、四半期間における発電による収益についてご説明いただきましたが、価格が上昇していても、1年あるいは2年後に発電業の収益に対して利点があるのですか?今バックログで厳しい課題を具体化しておいて、2007年と2008年度の事業に期待をしようとしているのですか?

ジェフ・イメルト - GE - CEO

その通りです。つまり、今日説明しましたガスタービンの分岐点および価格改善をみていただければ、12から18ヶ月でバックログに反映するのがわかります。ご存知のように、市場には他にも力をつけて価値を高めてきた事業があります。ですからこれは建設的なインジケータであり、風力発電においても同様です。一年を通して、風力発電はもちろんのこと、水力発電においても収益性の向上が見られると思います。

ジェフ・スプレグ氏 - シティグループ - アナリスト

最後にIGCCについて1つだけお聞きしたいのですが、ジェフ、あなたかキース、どなたのコメントにもありましたように、近い将来米国電力会社がレギュレーターなどの入荷待ちが考えられると思うのですが。これに対し先手を打っておくということはあるのでしょうか。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

広くエネルギーに関して話しているかと思うのですが、我々はエネルギー事業が向上することを確信しており、製品ライン全体において世界的需要に対応しています。このようにしてサービス事業は維持され、実行されています。弊社には勢いがあると私は感じています。NPIフロントにおいて、原子力発電事業と同様にIGCにおいてわずかな資金調達を推し進める決定は、顧客にとって非常に重要になってくると思います。弊社は下半期におけるこの事業への確実な受注を期待しており、将来が非常に楽しみです。

オペレーター

モーガン・スタンリーのスコット・デービス氏です。

スコット・デービス氏 - モーガン・スタンリー - アナリスト

皆様、おはようございます。私の構想では、NBCと電力発電事業は2つの大きな失敗だと思っていたので、NBCに関して少し詳しくお聞きしたいと思います。表ですがスライドは少々わかりづらいと思います。私たちが予想していた四半期のほとんどの損失またはデルタは、オリンピックによるものでしょうか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

そうですね、NBCユニバーサルが10%下がると案内した覚えがなくて、実際は8%です。これは弊社の予測とほとんど一致していますよ、スコット。

スコット・デービス氏 - モーガン・スタンリー - アナリスト

なるほど、私たちの予測が間違っていたようです。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

なんとも言えません。これは弊社が1月に配布したガイダンスであり、その部署が配送したもののなので。

スコット・デービス氏 - モーガン・スタンリー - アナリスト

わかりました、結構です。私の質問は、ここにオリンピックは期待通りに行われた、という言及についてです。オリンピック事業では実際損失が出たのですか、またそれを予測していたのでしょうか。それとも損益はなかったのですか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

はい、この四半期におけるオリンピック事業の損失は7,000万ドルと報告されています。オリンピックにおける収益および利益に関する補足の表はすでにお渡ししてありますが、前年に比べてわずかに悪化しています。オリンピックの放送宣伝および宣伝の撮影時に収益を流出しました。これが7,000万ドルの損失を出した経緯です。しかし、加盟系列局からオリンピックの損失を支払うための援助として返金不可能な寄附金を得ております。これは各四半期で発生しています。年間でみると、オリンピックは利益の面から言えば、わずかに黒字と見て取れるでしょう。また、オリンピックは全体的に見て非常に建設的かつ有益なフランチャイズです。しかしながら、本四半期では約7,000万ドルの損失を出しました。

スコット・デービス氏 - モーガン・スタンリー - アナリスト

結構です。では、次に電力発電についてお聞きます。本四半期の収益性は間違いなく増加するはずであると私は理解します。利益幅の予測などの具体的なわかりやすい言葉で説明していただけますか、そして、利益幅の増大に関しては、四半期ごとに期待できることについて簡単なガイダンスをいただけますか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

すでにお渡しした弊社のガイダンスを見ていただければご理解いただけると思いますが、2005年度四半期ごとのエネルギー事業が報告されており、エネルギー事業の年間実績が掲載されている13ページで、四半期ごとの営業利益ガイダンスを最大10に、次に下半期を25-30にすると、あなたの利益幅率への影響を予測できるようになっています。

スコット・デービス氏 - モーガン・スタンリー - アナリスト

わかりました。最後にもうひとつだけ、お願いいたします。風力発電の契約において古い契約を排除し、新しい契約が有効になるとどのくらいの有益になるのですか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

全体で風力発電は2005年度に比べて2006年度には数億ドル収益が増加する予定ですので、一年を通しての収益の増加が見込まれます。つまり、これはエネルギー事業の発展に大いに貢献するわけです。本四半期では、昨年の約280件に対して、今年は約400件ありました。収益は約1億6,000万ドルの増加のみでしたが、四半期において確実に利益を上げています。これは損益分岐点を上回る数字であり、風力発電に対する年間予測でいえば、順調な業績です。

スコット・デービス氏 - モーガン・スタンリー - アナリスト

よくわかりました。ありがとうございました。

オペレーター

ゴールドマン・サックスのディーン・ドレー氏です。

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

エネルギー事業に関する確認とコンシューマー・ファイナンス事業に関する質問があります。まず、エネルギー事業についての確認です。ガイダンスには年間の出荷高および解約についての記載がありませんが、顧客が出荷を取り消すリスクはないのですか。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

申し上げたように、昨年の受注は140件でした。受注の90%以上は納品されています。これは、担当チームが弊社のコマーシャルベースと照らし合わせて作成した予想納品高です。つまり、これが現時点における弊社の予想値です。我々はこのに掲載されるように達成されると思っています。申し上げたように、市場での需要はかなり好調です。ですから、受注取消しは予想していません。ご存知のように、昨年の最初の受注において約5,000万ドルの取消しが発生しました。しかし、その後そういうことはありませんでした、事業に前の年と比べて変化があったためです。しかし、本年度に関してはほとんど予想されません。

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

わかりました。では、コンシューマー・ファイナンス事業についての質問に移ります。御社は破産法の大幅修正にまったく影響されることなく突破されたようですが、それについて説明していただけますか。あと、数年後のコンシューマー・ファイナンス事業においては、米国以外からの出資の増加が見込まれますが、貴社が海外で行っている事業のリスクプロファイル変更が生じることがあり得ますか、またその場合、どのように対処されますか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

まず、破産法の修正に関しては弊社も業界全体と同じ立場にあります。ご存知のように、破産法改正を目前に第4四半期には破産申請が急増しました。破産申請は大幅に減少し、第1四半期に入ってからその状況が続いています。破産に関連する償却を行ったことがそれを証明しています。結果として滞納額は減少し、ポートフォリオの質は向上しました。ですから、昨年の第4四半期ほどの影響はほとんどありませんでした。第1四半期では破産申請は減少し続けており、業界全体に同じことが言えると思います。

収益増加についてですが、弊社のコンシューマー・ファイナンス事業の収益の約4分の3は海外からです。弊社は明らかに海外において発展しています。我々は事業のリスクプロファイルに変更があるとは思いません。弊社はポートフォリオの多様化を実行しました。弊社から融資を受ける個人それぞれの債務残高の額は少額です。弊社は地理的な多様化と多くの国で達成可能だと証明された事業モデルを追及し、それを、デイク・ニッセン率いるチームが他の国々に弊社のプラットフォームを拡大し続けるのです。

弊社は消費者フランチャイズの所々に優秀なリスク管理チームを配置しており、そして世界的な発展の可能性に非常に満足しています。弊社は、世界の消費者金融市場のごく一部分にしかすぎませんが、デイクが導く世界的発展を誇りに思います。ジェフ、何か補足がありますか...

ジェフ・イメルト - GE - CEO

いいえ、キースと同じ意見です。これについては弊社が実行する戦略の内容と一致していると考えます。特別な変更はないと思います。エネルギー事業に関する最初のご質問に遡りますが、チームは製品ラインにおいてかなりのアクティビティを経験すると思いますが、しかし、ガスタービンでさえ米国外が主流です。

オペレーター

CIBCワールド・マーケットのロバート マッカーシー氏です。

ロバート・マッカーシー氏 - CIBCワールド・マーケット - アナリスト

年間ガイダンスに関するボブの質問に遡ります。受注でかなりの増加があり本質的に長期的な受注高が見込まれるようですが、貴社が設定した2006年度の範囲内で下値になるとすれば何が要因になると思われますか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

申し訳ありません、ボブ。あなたの質問は、何が下値の要因になりえるか、ということですか？

ロバート・マッカーシー氏 - CIBCワールド・マーケット - アナリスト

そうです。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

経済活動に変化があったにしても、現時点で必ずしも確認できるわけではないと思います。我々は、常に視聴率などに関してNBCの状況を監視しています。物価高環境は現在は落ち着いているようにみられますが、これはいつも注視していることです。そして、今年度はまだ始まったばかりです。短期経済変動に関して言えば、NBCとプラスチック事業は常に他の企業に比べわずかに不安定ですが、弊社はインフラストラクチャー事業、ヘルスケア事業、コンシューマー/コマーシャル・ファイナンス事業において、2006年度に限らず、2007年度、またそれ以降についても強い自信を持っています。そして、プラスチック事業およびNBCのような不安定な事業にも活気が出てくる可能性はあると思います。

ロバート・マッカーシー氏 - CIBCワールド・マーケット - アナリスト

なるほど。つまり、計画としては2007年度に向けての勢いをつけていくことを念頭においているということですね。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

そうですね、33%の受注はかなり良好だと思います。多少増減があるかもしれませんが、会社全体で受注の33%、収益の10%、実質的成長率の9%増加は悪くありません。

ロバート・マッカーシー氏 - CIBCワールド・マーケット - アナリスト

なるほど。次にプラスチック事業に関するあなたの主張についてですが。3月に収益が増加し始め、昨年の第4四半期では価格を上昇させるために意図的に生産を抑え、最近では収益を増加させるために捨て値を実行したように思えるのですが。先を見越して、下半期のプラスチック事業の業績はどの程度だと思われますか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ご存知だと思いますが、弊社のプラスチック事業の今年度収益推定増加率を約20%としました。私は現在のところ、昨年と同水準か10%増ほどだと見込んでいますが、下半期に良好な収益が見込まれる鉄道、エネルギーなどの事業のポートフォリオで埋め合わせができると思っています。

プラスチック事業にとって厳しい年にあるかもしれませんが、極端に厳しくなることはないでしょう。言い換えれば、生産力はかなり好調です。価格は依然として相対的です。

今日、価格は多かれ少なかれ補正[benzing]が可能です。本四半期では、天然ガスおよびビジネス全体の他の経費などで補ってきました。ですから12月に予想したほどではありませんが、今年はかなり良い年になると思います。しかし、その差額はオフセットする予定です。

ロバート・マッカーシー氏 - CIBCワールド・マーケット - アナリスト

わかりました。では米国の建設業ですが、下半期に促進されるべきの多くの事柄があります。ビジネス全体で、非居住用または商業建設での上昇を予測される根拠は何ですか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

コンシューマー事業およびインダストリアル事業、さらにGEサプライの工業部門における受注と収益を見てみると、極めて堅調な業績を上げています。これらの事業では、2桁増加は稀です。

ロバート・マッカーシー氏 - CIBCワールド・マーケット - アナリスト

わかりました。最後に、欧州に関してですが、他に何か構想をお持ちですか。好況、立ち直りをみせている特定の地域や国がありますか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

プラスチック事業については、一般的な経済成長だったにすぎないと思います。さまざまな要因のため、弊社がヨーロッパで行っている事業のほとんどがインフラストラクチャー事業なので、国別の見解を申し上げることができません。

ロバート・マッカーシー氏 - CIBCワールド・マーケット - アナリスト

理解しました。お時間を割いていただきありがとうございました。

オペレーター

ベア・スターンズのピーター・ネスヴォルド氏です。

ピーター・ネスヴォルド氏 - ベア・スターンズ - アナリスト

先ほどのNBCに関する質問に関して質問させていただきます。放送事業において、収益の割には労力がかかり過ぎているように思われます。以前、放映権所有とインフラストラクチャー契約間には多くの相互作用が発生するとおっしゃられました。オリンピックが終了した今、オリンピック事業がどのようにインフラストラクチャー事業に有益だったかを数字で説明していただけますか？

ジェフ・イメルト - GE - CEO

そうですね、トリノオリンピックでは約6,000万ドルの収益がありました、しかし現在の大きなマジーラ是北京オリンピックです。北京オリンピックに対し、弊社は約12億ドルの経費をつぎ込む予定です。そのうちの8億から10億ドルの収益を得ると、私は予想しています。それでも私はオリンピックが好きです。トリノは良い開催地とは言えず、業績も厳しかったと私は思います。先ほどの

キースの説明と重なりますが、トリノオリンピックは損益がゼロ、むしろプラスになったと思います。北京オリンピックは、全く別の話です。北京オリンピックは、視聴率に関して言えば、ネットワークの見地からだけではなく、インフラストラクチャーの見地からも重要です。北京オリンピックは、NBCおよび企業全体にとって非常に有益になると考えています。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

インダストリアル事業について質問のフォローアップを設けております。

アン・ドゥイグナン女史 - アナリスト

こんにちは。アン・ドゥイグナンです。私は再生可能エネルギーショーで貴社の風力発電とソーラーチームとこの数日間を過ごしましたが、私が見た限りでは、どちらの事業とも著しく供給が制限されています。もし供給制限がなかった場合のこれらの事業における見通しについてお話しいただけますか。現場では、供給制限の影響を失くすためにどのようなことを行っているのでしょうか。最後に、貴社がさまざまな事業を展開している今、1つの事業に専念することを考慮し、ソーラーまたは風力発電の資産を分離して新会社を設立されることをお考えになったことはありますか。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

そうですね、私に言えることは、需要が高いということです。風力発電とソーラーは、別々にしなければいけないと思っています。風力発電では、今年の生産レートは35億ドルから40億ドルになる見込みだと思いましたが、確かではありません。キース、どれくらいのユニットですか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

昨年の1,500に対して今年の計画では約2000ユニットで、アンが言われたとおり、すでに完売です。市場は非常に好調です。この生産力は世界的に必要とされています。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

そして、90年代後半のバブル後退時にガスタービンに従事した同じチームを今回任命しました。ですから、弊社は風力発電事業が発展し続けるためにふさわしいすべての能力を保持していると確信しています。ソーラーは、また別の話です。弊社のソーラー事業は小規模ビジネスです。それよりもマテリアルズ、特殊マテリアルズが原動力となっています我々はそれをデボトルネックし続けませんが、風力発電事業に比べると小規模です。

弊社の観点では、すべて顧客が主体です。弊社には、特に風力発電事業と弊社の主要事業において共通の顧客がおり、更新可能なポートフォリオを保持することは、顧客主体の弊社をいっそう際立たせます。また我々は常にそうありたいと思っています。

弊社が2002年度に獲得した、普段ほとんど話す機会のないイエンバッハ事業について説明させていただきます。ディーゼルエンジンなどを取扱い、弊社が獲得してから3倍の規模に発展しました。弊社はエネルギー業界の大手です。我々は、弊社が最終的にはエネルギー事業または風力発電事業でトップになると考えておりますし、実現する能力を備えていると確信しています。

アン・ドゥイグナン女史 - アナリスト

風力発電事業は高く評価できます。私には、ソーラー事業は貴社の他のエネルギー事業との相互作用に関してあまり重要ではないように思われます。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ソーラー事業に関しての評価には、まだ早すぎると思います。ですからその事業に取り組み続けるつもりです。

オペレーター

フォーサイトのブライアン・ランゲンベルグ氏です。

ブライアン・ランゲンベルグ氏 - フォーサイト - アナリスト

まず最初に、エネルギー事業に関する促進について説明があったと思うのですが。数字に関しての質問が多かったのです。私たちが
出資した場合、タイミングにどれくらいのプラス効果があり、どれくらい新しい製品の促進になるのか、どれくらいの水力発電な
のかを議論した後で、次の質問に移りたいと思います。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

わかりました。簡単な見積もりを説明いたします。ユニットのタイミングに関する弊社の予想は、約2,500万ドルの効果です。パグ
ラン湾を含むNPIおよび投資のタイミングは、約7,500万ドルです。

ブライアン・ランゲンベルグ氏 - フォーサイト - アナリスト

では、第2四半期から始めて1四半期間中、または1年を通してですか？

ジェフ・イメルト - GE - CEO

年内には。おそらく、我々が水力発電に費やす予定だった中からあと2,500万ドルです。これらの数字はあくまでも概算です。

ブライアン・ランゲンベルグ氏 - フォーサイト - アナリスト

わかりました。次は年間の(識別不可能)に関することです。貴社のサービス事業は年間で5億ドルの増収、電力発電は1億ドルの減
収、そして絶好調の
すみません
風力発電事業は数億ドルの増収です。私の解釈が間違っていなければ、つまり、エネルギー事業、サービス事業は確実に年間1億ド
ル以上の減収だということです。ご説明いただけますか。

最後にコマーシャル・ファイナンス事業についてお話したいのですが。前年と比較して、この四半期の業績で利益はありますか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

エネルギー業では
風力発電の増益がありますが、増益はこれだけではありません。サービスはエネルギー事業の増益で大きな割合を占めており、風
力発電を削除しても、サービス事業が火力発電事業の構造改革の埋め合わせをするので、増益を確保することができます。

ブライアン・ランゲンベルグ氏 - フォーサイト - アナリスト

なるほど、それでわかりました。サービス事業が5億ドルの増益、電力発電事業が全体で1億ドルの減益、しかし、例えば電力発電
事業を分割し、これを、風力発電事業が3億ドル、または4億ドルの増益で・・・。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

それほどの額ではありません。

ブライアン・ランゲンベルグ氏 - フォーサイト - アナリスト

もう一度おっしゃっていただけますか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

それほどの額ではありません。

ブライアン・ランゲンベルグ氏 - フォーサイト - アナリスト

そうですか。では数億ドルくらいでしょうか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

その通りです。

ブライアン・ランゲンベルグ氏 - フォーサイト - アナリスト

わかりました。それでは、コマーシャル・ファイナンス事業に関してですが、この四半期に増益はありましたか。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

唯一の増益は
四半期にSCS株をいくらか売却したことによるものです。その利益に関しては税引きで約7,000万ドルでしたが、昨年の第1四半期では、弊社は残りの新生銀行株を売却し税引きで6,300万ドルの利益を得ました。ですから前年と比べて、目立つような大きな動きはありませんでした。

ブライアン・ランゲンベルグ氏 - フォーサイト - アナリスト

最後にヘルスケア事業ですが、前年比の販売利益を画像診断、バイオサイエンス事業、サービス事業・IT事業に分けてご提示いただけますか。ここに診断額の収益やバイオサイエンス事業の利益などのデータはいくらか確保していますが、もう少し全体像をつかみたいのです。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

営業利益の業績はすでに説明いたしました。テクノロジー事業は18%の増益でした。

ブライアン・ランゲンベルグ氏 - フォーサイト - アナリスト

画像診断が、ということですか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

そうです。ヘルスケア・サービス事業は15%増、バイオサイエンス事業および臨床システム事業は営業利益で30%増の業績を収めました。

ブライアン・ランゲンベルグ氏 - フォーサイト - アナリスト

画像診断の前年比の利益ですか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

それがテクノロジー事業です。18%の増加です。

ブライアン・ランゲンベルグ氏 - フォーサイト - アナリスト

わかりました。完璧です。以上です。ありがとうございました。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

レイチェル、質問はあと1つにしてください。

オペレーター

ニゲール コー、ドイツ銀行

ニゲール・コー氏 - ドイツ銀行 - アナリスト

GEキャピタルの税率についてキースに1つだけ質問があります。今年の幅は13%から15%になるとおっしゃったと思うのですが。これは貴社の前回のガイダンスよりわずかに低く、昨年度第4四半期以降何か変更があったのでしょうか。では、GEキャピタルは見積りの最高部を達成できる可能性が高いということですか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

キャピタルの税率について申し上げたいことが2つあります。初めに、前回のガイダンス発表時にトップレベルで予算編成を行いました。第1四半期中に、事業、地域別に、また世界的に綿密な運営計画を立てています。国際的な収益とその取引機会が世界に混在していることを我々は理解しています。よって綿密な計画を立てることは、より正確な見積りにつながるのです。要するに、GEキャピタルは米国の管轄外で、より多くの国際収益、低い税率を得るわけです。マイクとディブ・ニッセン率いるチームと連携を図り、純益を分析して、GEキャピタルの計画を立てるのです。現在の詳細な運営計画では、混合純益の税率が以前にご案内した数値に比べわずかに低くなっていますが、すでにお渡しした年間ガイダンスをもとに事業は順調に進行できると考えます。

ニゲール・コー氏 - ドイツ銀行 - アナリスト

どうもありがとうございました。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ニゲール、追加ですが、私の予想では年間のインダストリアル事業収益は年間金融サービス事業の収益と同等またはそれ以上になると思います。

ニゲール・コー氏 - ドイツ銀行 - アナリスト

よくわかりました。ありがとう。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

以上です。皆様、ご出席いただき、ありがとうございました。ジョアンと私はここに一日中おりますので、ご質問があればお気軽にどうぞ。また本日のコンファレンス・コールの議事録は来週掲載の予定ですが、本日午後にはウェブキャストで再生可能になる予定です。改めまして、本日はどうもありがとうございました。

オペレーター

皆様、これをもって本日のコンファレンス・コールを終了いたします。本日はご出席いただきありがとうございました。電話をお切りいただいて結構です。

免責条項

Thomson

Financial

は、いかなる人物に事前に通知を行うことなく、このウェブサイトに掲載されている文書、内容、またはいかなる情報を変更する権利を留保します。

イベント議事録が作成されたコンファレンス・コールにおいては、企業はいかなる項目に関しても企画または事業見解声明を作成することができません。事業見解声明は、予期される状況およびリスクを伴う可能性および予期せぬ状況に基づきます。実際の業績は、さまざまな重要な要因、および当事企業の最新の証券取引委員会への申告書に具体的に明記されているリスクに基づいて作成された事業見解声明のそれとは実質的に異なる場合があります。事業見解声明は当事企業の独自の判断に基づいたものであり、不正確あるいは不適切である場合があります。したがって、事業見解声明の予想業績の正確性を保証するものではありません。

イベント議事録に記載されている情報は、コンファレンス・コールにおいて当事企業から得たものを原文のまま記録したものです。正確なトランスクリプトを提供するよう心がけておりますが、コンファレンス・コールの内容において実質的な不手際が生じる場合のあることをご了承ください。THOMSON

FINANCIALまたは当該企業は、このウェブサイトまたはいかなるイベント議事録に掲載されてる情報に基づいたいかなる投資または決定に対して一切の責任を負いません。ユーザーの方は、いかなる投資および決定をする前に当事企業のコンファレンス・コールおよび証券取引委員会への申告書を精査されることをお勧めします。

© 2005, Thomson StreetEvents All Rights Reserved.